

# 島根県消防学校だより vol.18

## 初任総合教育 第57期 『卒業式』(平成29年度)

11月21日(火)初任総合教育第57期生36名の卒業式を島根県副知事藤原様、防災部消防総務課長青山様、島根県消防長会会長(松江市消防長)菅井様を始め、各消防本部消防長様他、多数の御来賓の御臨席を賜り盛大に挙行致しました。式典は9時から屋外で卒業展示の訓練礼式、救急演習、救助演習、消防演習と進み11時00分に展示を終えました。

今年は、消防演習の後、防火衣を着装したまま家族との写真撮影時間を15分設けました。11時40分から屋内式典を行い12時10分に終了しました。

この8ヶ月間一人も欠けることなく、本校での厳しい訓練を耐え抜いた若者達に、教職員一同、今後益々の活躍を期待するものです。

### 『卒業展示』

#### 【訓練礼式】

江津消防、月森学生指揮の下、「通常点検」から開始され、「小隊の停止間の動作」「中隊の行進間の動作」を行いました。



#### 【救急演習】

松江消防、重田学生指揮の下、「大型バスと普通乗用車の正面衝突事故により多数の傷病者がいる」との想定で、救急隊4隊、消防隊2隊、救助隊1隊で行われました。



#### 【救助演習】

出雲消防、勝部学生指揮の下、登はんは「ロープ応用登はん」「はしご登はん」、渡過は「セーラー」「モンキー」「チロリアン」「セーラーフォールセーラー」「セーラーターンモンキー」、降下は主塔から「オーバーハング」副塔から「リペリング」を学生全員で披露しました。



#### 【消防演習】

益田消防、桐田学生指揮の下、防火衣、呼吸器着装の後「中高層建物火災」の想定で、出動隊は指揮隊1隊、消防隊4隊、救助隊2隊、救急隊2隊で行われました。



#### 【屋内式典】

屋内式典では、堀江校長が一人ひとりに卒業証書を読み上げて手渡した後、「消防学校は、諸君らに対し、消防精神を基に教育を行い、諸君もそれに答えてくれた。そのことをしっかり胸に刻んで、これから始まる消防人生を歩んでいただきたい。」と式辞がありました。

来賓の方からは、島根県知事(代理 藤原副知事)と島根県消防長会会長(菅井松江市消防長)からそれぞれ御祝辞をいただきました。

最後に卒業生を代表し、総代の月森学生(江津消防)が「最初は何も知らない私たちでした。失敗すること、心が折れそうになることの連続でしたが、そんな時に支えになってくれたのが57期の仲間であり、ここまで指導して下さった教官方の熱い指導に深く感謝申し上げます。」と謝辞を述べました。

優秀賞は、桐田 康西(益田消防)、日野 健太(出雲消防)、松村 匠悟(雲南消防)、青木 春日(益田消防)の4名が受賞となりました。



各消防本部から1名ずつ、題『初任総合教育卒業を迎えて』の手記をいただきました。

【松江市消防本部 松田 優一】

11月21日の卒業式までの消防学校での生活が残りわずかとなりました。島根県消防学校の門をくぐってこの学校に入校したのがついこの間のように感じるほどあっという間の学校生活でした。入寮の時には教官方の勢いに圧倒され、自分はここで8ヶ月間しっかりとやっていけるのか不安でいっぱいでした。

しかし、年齢、性別は違いますが同じ目標を持った36人の仲間のおかげでつらい訓練も乗り切ることが出来ました。私は光栄なことに副総代という大役を任せていただきました。大人数をまとめる事、人前に出る事が苦手な私にとっては大変難しい役割でしたが、そのおかげで最後まで高いモチベーションで学校生活を送れ、より大きく成長できたと思います。私の消防人生が終わるまで、消防学校で得た知識、技術、出会った絆を大切に、市民の方の役に立てる消防吏員になれるよう努力していきたいと思っています。



～入校式～



～危険物試験合格祈願菅原天満宮～

【出雲市消防本部 日野 健太】

卒業式を一週間後に控えた私は、この8ヶ月間を振り返り、苦しかった訓練やかけがえのない同期との楽しかった日々の生活が蘇ります。入校当時は、お互い見ず知らずの関係でしたが今では固い絆で結ばれた同期となりました。私にとってこの出会いは大きすぎるがゆえに、この11月の卒業の月を迎えたくありませんでした。しかし、私達はこれから消防吏員として、この初任総合教育で培った知識・技術を生かして市民の方々に尽くさなければなりません。これから出る現場では、大変な事、苦しい事がたくさんあると思いますが、市民の方々が安心して生活できるよう頑張っていきます。

私は、この初任総合教育57期で副総代をさせていただき、最初の頃は総代に頼ってばかりでサポートができませんでした。しかし、日が経つにつれ副総代としての自覚が芽生え、学生をまとめるなど副総代の責任の大きさに気づくことができました。この先、人をまとめる立場となった時には、この経験を生かしていきたいです。

【益田広域消防本部 土田 誠人】

益田広域消防の8名は、4月11日に島根県消防学校に入校・入寮して約8ヶ月経ち、卒業はもう目の前まで近づきました。思い返してみると、この8ヶ月の期間で初めて出会った時とは比べものにならないほど厚い絆が芽生え、時には気持ちが入らない時もありそうになりましたが、互いに士気を高めながら過ごし、消防に対する意欲、関心、態度も良い方向に進んだと思います。

益田広域消防の8名は卒業までの残り少ない期間を互いに、切磋琢磨しながら平等に与えられた貴重な時間を自分

【浜田市消防本部 竹村 隆二】

約8ヶ月前、一人前の消防士を志し、意気揚々と消防学校入学式の日を迎えた私たちでしたが、時間が過ぎるのは早いもので、あっという間に卒業という日を迎えようとしています。入学当初は消防に対する知識や技術はもちろん、57期生の仲間意識や絆は希薄で、これから身に着けていけるのか、仲間と上手くやっていけるのかなどたくさんの不安要素がありました。いざ、消防学校での生活が始まってみれば、当初抱いた不安感は少しずつですが解消されていきました。もちろん、厳しく苦しい訓練で体力的にも精神的にも追いつめられることはありましたが、それを仲間と共に経験すればするほど、乗り越えれば乗り越えるほど、仲間との絆はより一層強固なものとなりました。この57期生の仲間と共に訓練をし、共に生活したことは私にとって掛け替えのない経験となり、この先長く続いていく消防人生における糧となると信じています。

卒業という日を目の前にして、消防学校の生活は終わりを迎えようとしています。私たちはやっと消防職員としてのスタートラインに立ったに過ぎません。これからは、この消防学校で学んだ基本的な知識や技術、体力、精神力、これらを更に練磨し、一人前の消防吏員として責任を全うし、国民の生命、身体、財産を守っていけるよう励みます。



～宍道湖岸で体力錬成～

のスキルアップの為に全力投球し、どんな現場でも活動できる隊員になれるよう貪欲に立ち向かい、後悔のないよう卒業の日を迎えたいと思います。所属に帰ってもこの消防学校での様々な経験を活かせるよう頑張ります。



～島根県・鳥取県消防学校合同訓練～

#### 【安来市消防本部 高橋 昂大】

初任総合教育第57期生としての卒業式を間近に控え、この消防学校での8ヶ月を振り返ると、かけがえのない同期の仲間たちと、この57期を時には厳しく時には優しく指導し、卒業まで導いて下さった教官方との思い出が蘇ります。

8ヶ月前、初めての共同生活に期待と不安を抱きながら踏み出す新しい生活への第一歩は、自分一人の覚悟だけでは到底踏み出すことのできない一歩でした。それを支えてくれたのは、応援してくれていた家族や友人達の存在です。そして、慣れない共同生活や厳しい訓練に耐え抜いてここまで来ることができたのは、同じ志を持ち苦楽を共にしてきた同期の仲間たちの存在です。

私は、私を支えてくれ人達のおかげでここまで成長することができました。仲間と心を通わせ、力を合わせることで一人では成し得ないようなことも成し遂げることができたと思います。現場に帰ってからも「人との繋がり」を大切にして、市民と心を通わせ支えになれる消防吏員を目指します。



～耐熱耐煙訓練～

#### 【雲南消防本部 高木 雄亮】

この度、初任総合教育第57期を無事卒業することとなりました。ここ消防学校には、沢山の思い出が詰まっています。思い返せば入寮日、消防学校へ向かう途中で「同期とうまくやっていけるのか」「勉強や体力はみんなについていけるか」などが心配で仕方なかったことを思い出します。しかし、その心配は誰もが感じていたことでした。消防学校での生活は、毎日が新しいことの連続で、初めは慣れない寮生活に溶け込むことに必死でした。楽しいことはもちろんたくさんありましたが、それ以上にきつい、厳しいことのほうが鮮明に思い出されます。しかし、それらの

#### 【大田市消防本部 永野 陽】

4月10日に入寮して、初任総合教育57期36名との共同生活が始まりました。当初は、まだ学生気分が抜けず消防吏員である前に社会人としてまだまだ未熟でした。今まで自分のミスは自分が負えば良かったのですが、ここ消防学校では自分のミスは全体の責任となります。訓練では、初めに何をしてもよいか分からずに出来なかったり、分からないまま行ってミスをしてしまい教官に叱られ、連帯責任のため全員で腕立て等をしました。そんな時、同期の仲間と一緒に基本活動や結索訓練に付き合ってくれて、この8ヶ月間を乗り越えることができました。

そして今、57期36名で卒業展示を成功させるために一致団結して、日々訓練して必ず卒業展示を成功させます。



～耐熱耐煙訓練～

#### 【江津邑智消防組合消防本部 月森 晃太】

8ヶ月前、期待と不安を胸にこの島根県消防学校へやってきた36人。なんと平均年齢が19.7歳と今までで一番若い期となりました。フレッシュな57期は入校初日から大きな声で意気込みを語り合い、爽やかな挨拶とともに8ヶ月間の幕開けとなりました。

私は、総代という役職に任命していただき、それからは常に一歩引いたところから全体を見ていました。私が所属する江津消防の同期は、私以外は高校を卒業したばかりの学生が5人おり、どう訓練に意識を持たせ、また何よりここでの人間関係がうまくいくのか心配でした。ですが、江津の同期は面白い者ばかりで人見知りなどなく、すぐにみんなと打ち解け、訓練にもすんなり入っていました。それは、本人達の純粋な心と立派な消防士になるという目標といつも支えあえあえる気持ちがあったからこそだと思います。私達は、今まで多くの失敗がありましたが、その数だけ成長できたと思います。これから江津消防の一員として、消防学校で得た知識・技術・仲間の絆を忘れずに、一人でも多くの方の役に立てるよう同期の仲間と切磋琢磨しながら頑張っていきたいと思います。

ことを乗り越えられたのは、支えてくれる「同期」という頼もしい仲間が居たからです。互いに声を掛け合って、助け合うことで絆も深まっていくことを実感しました。教官も初めは「鬼」としか思えなかったのですが、しばらく経つと私達のために無理して怒っているのではないかと思うようになりました。その時、初めて教官の優しさに気がきました。

長いと思っていた 8 ヶ月も残りわずかとなった 10 月末には、研修旅行へ行きました。旅行の感想は、一言で「最高」でした。あれほどまでに楽しめたのも、これまで様々な苦楽を共にしてきた同期と一緒にだったからこそです。

入校期間で、様々な面で成長することができました。入校前の面影などないくらい、身も心も逞しくなりました。最高の 8 ヶ月をプレゼントしてくれた 57 期の仲間と教官への感謝の気持ちでいっぱいです。

本当に厳しいのはこれからです。消防吏員になった時の強い気持ちと消防学校での思い出や感動を忘れず、市民の期待と信頼に応えられる消防吏員を目指します。



## 消防職員 専科教育 救助科第 29 期

11 月 27 日 (月) から 12 月 22 日 (金) までの約 1 ヶ月、消防職員専科教育「救助科第 29 期」を実施しました。この間 18 名の学生は、総代 竹内一弘学生 (江津消防) を中心に、救助活動を指揮する者として必要な知識・技術の習得に取り組みました。

訓練では、従来の訓練の他、今回初めて在日米海軍統合消防局 Captain 草場秀幸講師から土砂災害対応訓練を計画しました。また、鳥取県消防学校救助科との合同訓練、県内消防本部へ出向いての訓練も実施しました。

この消防職員専科教育救助科第 29 期で、島根県消防学校の平成 29 年中の教育を終えました。



### 編集後記 (事務局より)

初任総合教育第 57 期生 36 名は、所定のカリキュラムに基づく厳しい訓練と知識の習得を経て、このたび全員卒業の日を迎えました。

今年の学生たちは、三瓶山登山、鳥取県消防学校との合同大山登山など初めて試みる行事や、9 年に 1 度の巡り合わせで中四国ブロック緊急消防援助隊訓練の参加などがありました。どれも学生たちにはいい経験になったと思います。私もこの学校に来て初任学生を送り出すのは 2 回目ですが、やはり卒業式は万感胸に迫る思いがあります。彼らが今後、より一層大きく成長してくれることを願い見送りました。 ~校長 堀江 剛~

今年もよろしくお祈いします

島根県消防学校

〒690-0046 島根県松江市乃木福富町 7 3 5 - 1 5 7

E-mail : syobogako@pref.shimane.lg.jp

Tel : 0852-22-0166